

並木ドリーム第1号。始業式の「校長講話」です。

2016年4月1日（金）に並木中等教育学校の9年目が始まりました。4月6日（水）には、新任式と始業式がありました。始業式で私が話した内容の要旨は以下の通りです。

◆4月6日の始業式での「校長講話」の要旨◆

テーマ：「アクティブラーナーとして、たくましく生きてほしい」

- 今日は、まず、3つの数字「65・47・49」についてお話しします。
- 2011年8月、アメリカ・デューク大学の研究者であるキャシー・デビッドソン氏は、ニューヨークタイムズ紙のインタビューでこう語りました。「2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう。5年前の発言ですので、計算するとあと11年後のことになります。
- 2013年、人工知能の研究者であるイギリス・オックスフォード大学のマイケル・オズボーン博士は、「未来の雇用」という論文の中で、今後10年から20年程度で、アメリカの約47%の仕事が自動化されるリスクが高いと結論づけました。
- 2015年12月、野村総合研究所は、今お話したオックスフォード大学のオズボーン博士との共同研究により、日本国内601種類の職業について分析し、10年から20年後に、日本の労働人口の約49%が、技術的には人工知能やロボット等により代替できるようになる可能性が高いと推計しました。
- 実は、我々の想像以上に世の中は変化しています。この変化を「明治維新以上の変化」と表現する人もいますし、欧米では「第4次産業革命」と呼ぶ人もいます。「第4次産業革命」とは、「インターネット」と「AI（人工知能）」で製造業を自動化する動きです。
- このような時代を生きていくためには、何が必要なのでしょう。
- 昨年8月1日に参加したセミナーで「教育界のさだまさし」と呼ばれている藤原和博氏の講演を聴きました。藤原氏は、正解を求める「シグソーパズル型の学力」だけでなく、これからは、みんなに納得してもらえる納得解をつくり出す「レゴ型の学力」が必要だとお話されていました。レゴとはレゴブロックのレゴで、発想力豊かに、レゴブロックを組み上げていくような、情報編集力が大切だと力説されていました。
- 昨年から、教育界では盛んに「アクティブ・ラーニング」という言葉が使われるようになりました。直訳すると「主体的学習」「能動的学習」となります。略してALです。
- 私は、1年間、多くの研修会や東京でのセミナーで、「アクティブ・ラーニング」について学び、発信もしてきました。私の考える「アクティブ・ラーニングの目的」は「アクティブラーナー（能動的学習者）」を育成することです。そして、形態や形式やルールではなく、「アクティブラーナー」を育成することを目的としている授業は、みな「アクティブ・ラーニング型授業」であると考えています。
- 「アクティブラーナー」になると、毎日が明るく楽しく充実します。そして、「アクティブラーナー」なら、これからの変化の時代にも、柔軟に対応していけると、私は信じています。皆さんには、大きく変化する未来にあって、夢の実現を目指し、「アクティブラーナー」としてたくましく生きてほしいと考えています。ぜひ、一緒に頑張りましょう。



*藤原氏より掲載許可をいただいています

この度、並木中等教育学校第4代校長として赴任しました中島博司です（写真左）。本日より、年間100号を目標に校長通信「並木ドリーム」を発行し、学校の様子等を配信してまいります。ご支援、ご愛読のほどよろしくお願いいたします。